IBMで成し遂げたいこと

私がIBMerとして成し遂げたいことは、「IT技術の専門家として日本社会でイノベーションを起こすこと」です。それを実現するために、ITスペシャリストの職種を志望しました。そう考えたきっかけは、情報系の大学院でSAP関連のプログラミング言語を学習し、ERPに関する研究を進めてきた経験にあります。これからさらに加速化する情報化社会において、先端テクノロジーによる企業の変革が避けて通れないものだと感じました。そのため、就職の軸として「技術力を活かし企業のイノベーションを支援できること」を挙げています。その中で、世界トップレベルの技術力を有し、AIソリューションをはじめとする最先端テクノロジーに積極的に取り組んでおり、社会と企業に多くのインパクトをもたらしている貴社に強く惹かれ、第一志望の企業としました。さらに、グロバールカンパニーとして貴社の社員は様々なバックグランドを持ち、知見を合わせて顧客に価値提供している点にも魅力を感じています。ITスペシャリストとして技術力を磨きつつ、留学経験を活かしたダイバシティ推進への貢献を意識しながら、顧客企業や社会の変革を加速化できる存在になりたいと考えています。

一番困難だったこと

大学時代、ゼミ活動における共同リサーチに参加した際に、日本では新たな概念としてまだまだ浸透が必要とされる中で、事例を探すことが困難だった。そこで、私たちのチームは、以下の2つの施策を考えた。1つ目は、オンラインでの情報調査とは別に、企業を現地訪問し、ERP導入に関するインタビューを行った。2つ目は、日本国内の事例だけでなく、メンバーのバックグランドを活かし、グロバール事例まで収集した。その結果、事例が豊富で説得力のある共同リサーチだとゼミの指導教員から高く評価されることができた。この経験から、チーム活動においてメンバーのそれぞれの知恵や知見を持ち合わせ、協力し合うことが大事だと学んだ。

チームワークの経験

大学時代、飲食店でアルバイトをした際に、同僚と一緒に売上向上策を考え、実施した経験がある。コロナの影響で客数が減少し、売上が低迷していたことに対して、私たちはコロナ対策に特化した2つの施策を考案した。まず、換気設備や消毒液などを導入し、感染対策を徹底した上で、SNSやホームページで周知すること、次に、店舗とは別にデリバリー会社と連携し、新たにオンライン注文システムを構築し、出前が可能な体制を整えること。結果として、このような対策が功を奏し、売上は徐々に回復を見せ、コロナ禍を乗り越えることができた。この経験から、困難な状況下でも積極的に挑戦することが問題解決に繋がることを学んだ。

自己PR

私はチャレンジ精神がある人間だ。この強みは、カナダからの留学生と中国の学生との交流を促進するために、学内のカフェスペースを借りて英語コーナーを立ち上げた経験から培われた。その際に参加者は大勢いたが、会話が盛り上がらない点が問題となっていた。その点を改善するために、まず、週に1回参加者にヒヤリングをし、話したいトピックをまとめ、事前に英語コーナーのグループ内で共有するようにした。そして、会話以外にもゲームも取り入れることによって、相互理解を深める機会を提供した。上記の施策を実施した結果、英語コーナーを盛り上げることができ、楽しく交流できたと参加者からフィードバックをもらうことができた。

自分の弱み

私の弱みは完璧主義なところだ。細部にこだわりすぎることで、時に効率が低下することがあった。具体的には、大学院でプログラミングの授業で、チームでウェブサイトを構築し、発表するお題が与えられた際に、些細なエラーに対しても過度に時間をかけて修正しようとすることがあり、それが発表の全体的な進行に影響を及ぼしたことを経験した。その反省から、最も重要なタスクに集中し、効率的な対応することの重要性を学んだ。それ以来は、大枠を掴むことを意識し、細部に囚われ過ぎないように心掛けるようになった。これからの社会人人生も、作業の全体のバランスを取りながら、高品質な成果を出すことを目指してきたい。

社会課題を1つ例に挙げ、課題解決に向けてITインフラで何ができるか

ITインフラを活用し、留学生の日本での就職率を向上させることで、社会のダイバシティを促進したい。政府の調査によると、日本での就職を希望しているにもかかわらず、就職を叶えなかった留学生は70%以上もいる。その裏にある原因は、日本人学生と比べ、留学生が情報を入手するルートが極めて限定的で情報格差が存在していると感じた。情報格差をなくすためには、各就職サイトに分散されている情報を集め、データベースを構築することが有効な解決策だと考える。そういったビッグデータに加え、AIソリューションを利用し、留学生のバックグランドやスキル、就職の軸に合わせて業界や企業を提案することで、最適な就職先を効率的に見つけられる。

ITサービス業界、ITスペシャリスト職を通じてできること、成し遂げたいこと

私がITサービス業界とITスペシャリスト職を志望する理由は、「IT技術の専門家として日本社会でイノベーションを起こす」という自分の思いがあるからです。そう考えたきっかけは、情報系の大学院でSAP関連のプログラミング言語を学習し、ERPに関する研究を進めてきた経験にあります。これからさらに加速化する情報化社会において、先端テクノロジーによる企業の変革が避けて通れないものだと感じました。そのため、就職の軸として「技術力を活かし企業のイノベーションを支援できること」を挙げています。その中で、世界トップレベルの技術力を有し、最先端テクノロジーに積極的に取り組んでおり、社会と企業に多くのインパクトをもたらしている貴社に強く惹かれ、志望した。さらに、グロバールカンパニーとして貴社の社員は様々なバックグランドを持ち、知見を合わせて顧客に価値提供している点にも魅力を感じています。ITスペシャリストとして技術力を磨きつつ、留学経験を活かしたダイバシティ推進への貢献を意識しながら、顧客企業や社会の変革を加速化できる存在になりたいと考えています。